２．事業の概要

(1) 主な教育・研究の概要

1) 北海学園大学

各学部、教育研究上の目的に掲げた人材を育成するため、卒業認定・学位授与に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針を定め、組織的で体系的な教育を展開し、学修の充実に努めている。

建学の精神　https://www.hgu.jp/about/frontier-spirit.html
使命・目的　https://www.hgu.jp/about/mission.html
3つのポリシー　https://www.hgu.jp/about/three-policies.html

2) 北海商科大学

現代社会の急速なグローバル化に対応した教育研究を実践すべく、とりわけ北東アジアの動向に注目し、「アジアの時代にアジアを学ぶ」ことを教育目標に掲げ、今日の新事態に対応した教育研究を展開している。

建学の精神、使命・目的　https://www.hokkai.ac.jp/daigaku/daigaku01/
3つのポリシー　https://www.hokkai.ac.jp/daigaku/daigaku03/

3) 北海高等学校

特別進学コースと進学コースの2つのコースを設け、さらに特別進学コースはSクラスと特進クラスを設置し、生徒の希望進路を考えたカリキュラムで教育を展開している。Sクラスは難関国公立大学への進学、特進クラスは道内外の国公立大学、難関私立大学への進学を目指し、進学コースは得意分野で個性を磨きながら国公立大学、私立大学への進学を目指すこととしている。

4) 北海学園札幌高等学校

文理系国公立大学を目指す特進コース、私立大学、専門学校への進学や、就職を目指す総進コース、英語を用いた様々な活動を通して、語学力の向上とともに実践的な力を身につけるグローバルコース、看護師や理学療法士、管理栄養士などの医療従事者を目指すメディカル・プレップコースを設置し、生徒の目標を達成するための教育を展開している。

(2) 2022（令和4）年度事業の報告

1） 教育研究活動

【北海学園大学】

事業計画	事業報告
①新型コロナウイルス感染症対策 ・3密を回避した授業環境の確保、遠隔授業への対応などの環境整備の充実 ・コロナ禍に対応したキャリア支援体制、入試広報等の検討と実行 ・衛生面における感染予防対策の実施 ・感染症対策費の予算化と緊急時対応へ	新型コロナウイルス感染拡大で、この3年間対面授業ができない環境のなか、創意工夫をして遠隔授業を実施し、教育の質の維持に努めた。現在は多くの授業が対面で行われるようになってきたが、この経験からもオンライン等に対応した環境整備は、今後、より必要とされるものである。

の備え	
②3ポリシーに基づく人材の養成 ・教育の質保証、3ポリシーの適切性の検証における学外者の意見聴取の具体化	キャリア支援センターの協力のもと、課題であった学外者の意見聴取を実施した。
③アセスメント・ポリシーの策定 ・具体的な策定の検討	アセスメント・ポリシー/プランを策定し、各学部でアセスメントを行った。
④企業・地方公共団体等との連携強化 ・地域社会と連携した総合研究の実施 ・北海道との包括連携協定やその他企業・地方公共団体との連携協定に基づく事業の検証と今後の模索	開発研究所における「北海道における持続可能な地域社会の形成方策に関する総合的研究～地方創生とSDGsからのアプローチ～」をテーマとした3カ年の総合研究の2年目として進行中である。
⑤生涯教育の地域拠点としての機能 ・2部（夜間）の社会人学生増加に向け、社会ニーズの把握	計画通り実施するに至らなかったため、令和5年度において再検討を行い計画遂行に努める。
⑥GPA制度活用と教育の質保証 ・GPA制度の検証と活用に関する検討など	GPA制度について、成績不良者に対する退学勧告基準として用いること等を検討中である。
⑦FD活動 ・教育開発運営委員会によるFD研修会等の実施と教育内容・方法及び学習指導等の改善に向けた取り組み	FD研修会、SD研修会を対面で実施し、録画視聴を含め、全教職員に参加を求め、ほとんどの教職員の参加を得ることができた。
⑧教育効果･課題の認識と学修指導体制の強化 ・アセスメントテストによるデータの蓄積と活用	教育の質保証のアセスメントのため、1～3年次を対象にアセスメントテストを実施した。次年度は4年生も実施することにより質保証体制の充実を図る予定である。
⑨他大学との連携強化 ・職員交換研修等実施の検討など	計画通り実施するに至らなかったため、令和5年度において再検討を行い計画遂行に努める。
⑩グローバル化の推進 ・北京理工大学との協定締結、ハワイ大学での経営学部海外総合実習開始 ・人文学部とレスブリッジ大学間におけるダブルディグリー制度の実施	北京理工大学とは今年度協定を結び、次年度から正式に派遣の募集をかけることとなっている。経営学部海外総合実習をハワイ大学に派遣先を変更し実施した。人文学部ダブルディグリー制度で派遣学生1名が9月よりレスブリッジ大学に留学している。
⑪科学研究費等外部研究資金の獲得推進 ・積極的な外部資金情報の収集・提供とサポート体制の充実 ・研究実績の広報強化と教員の外部資金獲得意欲向上	科学研究費等の外部研究資金の積極的な獲得を継続的に行った。
⑫北海学園大学出版会の活用推進 ・さらなる出版実績の積み上げ	学術書3冊が出版された。今後も北海道の私学、唯一の出版会として、出版実績を積み上げていく。

⑬豊平キャンパス・山鼻キャンパス・清田グラウンドの複合的運用 ・施設間交通アクセス改善の本格運用	利用者増に伴い、豊平・山鼻キャンパス間のバス運行を増便した。
⑭その他 ・学生募集を停止した法務研究科の教育研究充実など	引き続き法務研究科在学生に対する教育研究の充実を図った。

【北海商科大学】

事業計画	事業報告
①教育・研究の特色の継続的発揮 ・商学教育・研究及び観光学教育・研究の質的向上	新型コロナウイルス対策会議において様々な感染症対策を講じ、教室の収容定員を感染防止対策人数(収容率の概ね 50%程度)に制限するなどの対策を行い、面接(対面)方式による授業を実施した。また、海外協定先の新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、韓国大田大学校へ学生16名を約5カ月派遣した。中国協定校への派遣や留学生の受入れ等の交流再開に向けた準備を進める。
②教育内容の充実と教育環境整備 ・教員による自己評価等と学生満足度を高める工夫と意識改革 ・e-Learningシステムの利用拡大促進とICT環境整備強化 ・円滑な遠隔授業を可能とする教育環境整備と感染症対策	計画通り実施するに至らなかったため、令和5年度において再検討を行い計画遂行に努める。
③高大連携への取組み ・北海学園札幌高校、北海道札幌東商業高校、北海道札幌国際情報高校との実績を踏まえた対応 ・「高校生への懸賞作文募集」の広報と連動した事業としての検証と実施	様々な感染症対策を講じた結果、コロナ前の高大連携の取り組みに回復した。また、懸賞作文に207名の応募があり、8名が入賞した。
④教育・研究体制の整備と自己評価機能の強化 ・教員の自己点検評価システム強化と学生による授業評価システムとの連動 ・FD/SD等の実践的取組を通じたシステム構築の実現	令和5年度に実施予定の大学機関別認証評価の受審を想定し「自己点検・評価報告書」(教員研究業績を含む)を作成した。また、教育方法・教育効果の検討、およびFD/SD等の実践的取組については、令和5年度において再検討を行い計画遂行に努める。
⑤学生支援体制の充実 ・学生サービス向上への総合的支援体制の充実 ⑥Web出願への対応 ・Web出願の充実と実施	計画通り実施し、令和5年度についても継続的に実施し計画遂行に努める。

⑦広報活動を含めた学生募集活動の充実・強化 ・広報活動及び入試制度の改善とキャリア教育と就職先開拓の継続実施	オープン・キャンパスは全て対面で行い、コロナ前の水準に回復した。今後は、Web 広告の配信や「受験生特設サイト」の設置など、積極的に情報発信を行い、本学の特色の周知に努める。また、広報活動及び入試制度の改善と一層のキャリア教育の取組と就職先開拓については、令和５年度において再検討を行い計画遂行に努める。
⑧公開講座の継続 ・新型コロナウイルス感染症の収束状況を踏まえた実施	計画通り実施するに至らなかった。再開に向けて具体的検討に努める。

【北海高等学校】

事業計画	事業報告
①学習指導 ・基礎学力の定着を目指した授業、自主性・独自性を伸長させる学習指導の実践と個々の生徒に応じた指導 ・1学年会でのペアワークの実践・検証と学校全体の取り組みへの発展 ・タブレットPC導入（年次進行）に伴う「ICTを活用した授業」への研鑽、理解力向上と創造的な学習活動への取り組み	生徒の学習状況の把握には、本校独自の「スチューデントプランナー」を活用している。担任との定期的な面談を繰り返すことにより、生徒が主体的に振り返りをし、部活動との両立、休日の家庭学習などの適切な時間管理が行われるよう指導した。また、教科担任は、授業の様子と個々の生徒の学習の定着度などの情報を、担任・部活動の顧問とも共有して生徒の指導に活かした。
②ICTの活用に向けて ・ポリシーの遵守と教職員によるサポート体制の構築と充実 ・生徒用タブレットPCの管理、ルールの徹底と情報化社会を生き抜くための知識・技能、倫理観の修得 ・オンライン授業への対応と質保証、業務における情報の共有化	「ICTを活用した教育」への指導力向上のために、教科会議では継続的に検討がなされ、シラバスに示したとおり授業が進められるよう努力した。また、公開授業の日数を拡大するなどして、教務部を中心に、教科を横断した研修が行われるよう工夫した。 新たに設置された「探究委員会」を軸に独自性のある探究の在り方を進め、1学年所属の教員は、全員が探究拡大委員として各クラスの探究の授業に関わり(ペアワーク)、一人ひとりの生徒に丁寧な指導を行った。 また、北海学園大学から定期的に講師を招き、「探究とは」、「研究論文のまとめ方」などのテーマで講演をしていただく機会を設けた。生徒一人ひとりが設定した(SDGsを中心とした)テーマで作り上げられたレポートは、PowerPointによってプレゼンされ、生徒・教員との相互の意見交換と大学講師からの外部評価を受けて、生徒の表現力に向上が図られた。

③生徒指導 ・生徒の自己選択や自己決定の場や機会の提供と教員による適切な指導と援助 ・学年会・いじめ対策委員会・生徒指導部が一体となったいじめ対策 ・心的不安定な状態にある生徒に対するスクールカウンセラー等と協働したケア	コロナ禍において学校生活への不安を感じている生徒は一定数おり、担任だけではなく、学年会、スクールカウンセラーとの連携を密にしながら状況を把握してきた。残念なことではあるが、登校できない生徒もおり、進級が難しくなってきた生徒の中には環境を変えるために通信制の高校に転入した例もあった。
④進路指導 ・生徒が「生き方」としての進路選択ができる指導 ・大学や企業等との連携と多様な経験ができる教育計画 ・大学入試全般と受験生の情報収集・検証と対応の検討	あえてコロナ禍で経験したことからの学びを意識させる指導を加えながら、生き方としての進路指導を徹底した。担任との面談回数は、例年以上に行われた。その中では、個別指導を重視して、生徒及び保護者への適切な情報提供を行った。また、コロナ禍における対策の一つとして、3年生には受験生向けの講習をオンラインでも開講した。
⑤部活動・課外活動 ・教育活動の中核としての位置づけ、生徒の主体性重視、時間を有効活用するための練習計画、心身ともにバランスの取れた生活や成長	部活動が学校教育の一環であることを前提に、本校の特色である教育活動として多くの運動部・文化部の活動が実施された。コロナ禍であったことで、当初は生徒による主体的な活動として制限されたものもあったが、大会の実施制限も緩和されるようになり、ほぼ計画通りに活動することが可能となった。これに伴い、野球部(秋季大会全道準優勝)、サッカー部(2年連続の全国選手権大会出場)の活躍に全校応援を実施することも可能となって学校全体が活性化された。
⑥北海学園としての高大連携 ・7年間で行われる高大一貫教育の魅力や経営的側面からの課題の検討	併設校との高大連携については、具体的なものとしては進んでいないが、いくつかの可能性について議論する準備がなされた。 探究活動の面では、上記に記載のとおり、一定の流れが出来つつあるが、他校にはない教育の在り方については、早期に研究する必要性を感じる。 一期3年とされていた成城大学との高大連携協定については、今後も更新され、新たに成蹊大学、北海道医療大学との高大連携協定が調印されたほか、法政大学、中央大学、芝浦工業大学とも協議をする機会があった。

【北海学園札幌高等学校】

事業計画	事業報告
①学習指導 ・ICTと融合した授業形態へのさらなる展開 ・デジタル教科書・教材の活用、アクティブラーニングなどを活用した探究的な学習活動への時間のシフト ・AIを活用した教材の活用	電子黒板を普通教室全教室に導入し、各教科とICTとを融合した授業を実施した。新型コロナウイルス感染症により学級閉鎖もある中、タブレットの利用により授業の遅れ等はなかった。 デジタル教科書・教材の活用について、今後も検討を継続する(授業内での教材活用について、コロナ禍による授業時間不足の懸念もあり、予定していたことがかなりできなかった)。
②ICT活用に向けて ・生徒用タブレットPCの管理ルール、管理体制と教職員による運用サポート体制の充実、教職員向け情報リテラシー研修の実施 ・オンライン授業、自習教材等配信、Webアンケートによる学習・生活状況把握	ICTポリシーを策定し、その運用を行った。また、情報リテラシーの研修を実施し、教員の情報リテラシーの向上に努めた。 新型コロナウイルス感染症拡大のため、やむなく設けた休校期間や学級閉鎖などの状況に応じて、Google Classroomを活用し、オンラインによる授業配信、双方向の授業やHR、教材配信などを行い、生徒の学びを止めない取り組みを実践した。 オンラインによる保護者・生徒の面談を実施した。タブレットの利用については概ね良好に思える。教職員の利用についても、科目に差はあるものの、概ね良好と言え、職員会議等のペーパーレス化も進んでいる。
③地域社会への貢献と連携 ・町内会、大学、病院、福祉施設などとの連携継続によるボランティア活動等の実施	コロナ禍の中、ほとんどの活動が中止となったが、地域への貢献・ボランティア活動として、また、高大連携事業として北海学園大学工学部と「ENGINEERING LABO 2022」を実施し、高校生にもわかりやすい授業や実習が行われたことで工学や科学の分野への興味が高まり、生徒が多角的な視点で物事を捉え考えるきっかけとなった。さらに、酪農学園大学で行った循環農業について、実際に豊平キャンパスの空き地を利用し、畑を作り生産、収穫までを実践した。
④部活動 ・練習環境整備と指導者養成による部活動強化と体育振興	グラウンドの整備に伴い、令和5年度全国高校総体において陸上ホッケーの試合会場として採用され、生徒たちに良い刺激となった。

⑤国際理解教育推進化と心の教育 ・WWLコンソーシアム構築支援事業の推進とSDGsを意識した教育活動の実施、心的不安定な状態の生徒のケア ・WWLコンソーシアム構築支援事業の円滑かつ適切な推進	文科省からWWLコンソーシアム事業におけるカリキュラム拠点校となり2年目を迎え、昨年度よりも内容の充実を図り、フィールドワークの充実を図った。 カリキュラムでは、2年次の選択科目である「中国語」において、スピーチコンテストの全国大会に出場するなど成果を上げ、また、ネイティブによる授業は、生きた言語を学ぶ上で重要なものとなった。 生徒の心のケアについては、カウンセラーによるカウンセリングがあるという安心感と教諭のチームワークを柱に生徒に寄り添えた。

2）管理運営

事業計画	事業報告
a）ガバナンスの強化、運営基盤の充実 ・学園運営体制の一層の整備と財政状況の分析、組織機構の見直しを通じた運営基盤の充実	毎月の常任理事会と計10回開催した理事会において、学園の現状や学校運営等について十分に協議し、適切なガバナンス体制の確保に努めるとともに、「学校法人北海学園ガバナンス・コードの記載事項に対する自己点検」の結果を活用し、運営管理に役立てた。また、理事の適正な配置や増員など、ガバナンス体制を一層強化するため、寄附行為変更認可申請を行い、令和5年3月9日に認可を受けた。
b）学園全体の連携推進 ・高大連携強化、国際教育・国際交流センター設置、学園全体の教育力、研究力向上を推進する組織、システム構築の具体的検討と段階的実現	高大連携の強化や国際教育・国際交流センターの設置などについて継続して協議した。また、教育組織検討委員会を設置し、学園全体の教育の充実・質の向上を図るべく検討を進めた。
c）事務組織 ・学園全体の事務組織の在り方に関する検討委員会における検討の推進	事務組織改編に向けた検討委員会を立ち上げ、具体的な見直し・改編について協議した。新たな組織づくりとして、理事会のガバナンス改革に連動し、企画室を経営企画部として再編成するよう準備した。
d）情報公表 ・法令等に則った法人や設置各校のウェブサイトによる積極的な情報公開の充実	法人として、また、設置各校において積極的な情報公開の充実に努め、それぞれのウェブサイトを運用するとともに、ユーザビリティに配慮した情報配信を心掛けた。
e）職場環境の改善 ・働き方改革による労働環境・職場環境の改善	よりよい働き方改革実現に向けて検討を重ね、規程の整備に努めるとともに、一般事業主行動計画実行委員会を開催し、育児・介護に係る労働環境・職場環境の改善に努めた。

3）教育研究環境

事業計画	事業報告
a）施設設備の充実、老朽化対応 ・年次計画に基づく施設設備の充実と老朽化部分の対応 ・北海学園大学第1体育館の建築計画策定 ・高等学校体育館の検討開始 【北海学園大学】 ・豊平3号館2階教室冷房化 ・豊平自動火災報知システム更新 ・豊平文化系部室棟ボイラー自動制御システム更新 ・北海学園会館屋上防水改修 ・山鼻1号館4階製図室、2号棟工学基礎実験室3冷房化 ・山鼻2号館5・6階給排水管改修 【北海商科大学】 ・電話交換設備更新 ・照明制御・計量システムユニット更新 【北海高等学校】 ・1号館1・2階教室冷房化 【北海学園札幌高等学校】 ・1・2号館1階冷房化 ・グラウンド北側照明設置 【清田校地】 ・ラグビー場動物侵入対策フェンス新設	施設設備の充実と老朽化対応について計画通り実施した。 ・北海学園大学第1体育館については令和4年度中に建築計画を策定することとしていたが、決定に至らなかったため、高等学校体育館と併せ令和5年度中に建築計画を策定する。 ・北海学園大学豊平校地、山鼻校地、北海高等学校、北海学園札幌高等学校の冷房化及び北海学園大学、北海商科大学の老朽化施設・設備等の改修を計画通り実施した。 また、北海学園札幌高等学校グラウンド北側照明設置及び清田校地ラグビー場動物侵入対策フェンス新設により、両グラウンドの環境が大きく改善した。 ・当初の計画に加えて、本学園には学生が寛げる空間が少ないため、修繕費により札幌研修施設棟1(教育会館)2階、3階の旧食堂を、自由学習、飲食、休憩等に使用できる学園オープンラウンジに整備した。
b）ICT環境整備の推進 ・年次計画に基づく学内LAN整備、ネットワーク機器整備 ・学園全体のネットワーク構成の一元化によるICT教育及び研究環境の高度化と情報セキュリティ対策向上 【北海学園大学】 ・豊平キャンパスネットワーク機器整備 ・山鼻キャンパスネットワーク機器整備 ・ネットワーク認証基盤サーバ整備 ・ポータルシステム整備 ・証明書自動発行システム整備 ・豊平4号館・図書館棟研究室スイッチ・LAN配線整備 ・HOKUGAサーバ整備 ・事務系ネットワークスイッチ整備 ・豊平6号館、図書館棟マルチメディア機器整備	北海学園大学、北海商科大学、北海高等学校、北海学園札幌高等学校のネットワーク機器を含む学内LAN整備は、文部科学省に補助金申請を行い、採択され実施した。 また、学園全体の主要なネットワークを10G化し一元管理を行い、高度化するICT教育・研究に対応可能なインフラ基盤の整備を実施した。 北海学園大学の証明書自動発行システムについては、世界的な半導体不足により、令和5年度へ持ち越しとなったが、それ以外の事業については、全て計画通り実施した。

・山鼻1号館3階マルチメディアAV設備整備 ・山鼻3号館3階マルチメディアAV設備整備 ・LMS整備 ・図書館ラーニングコモンズPC整備 【北海商科大学】 ・学内ネットワーク機器整備 【北海高等学校】 ・Sクラス生徒用iPad利用の授業継続 ・新入生、新2年生タブレットPC導入 ・モバイルプロジェクター導入 ・学内ネットワーク機器整備 ・インターネット回線増強 【北海学園札幌高等学校】 ・新入生タブレットPC導入 ・電子黒板設置 ・学内ネットワーク機器整備 ・インターネット回線増強	
c) バリアフリー対応 ・豊平図書館・国際会議場AV実習室段差解消工事 ・豊平1号館演習室A201、6号館C31入口扉スライド化	図書館・国際会議場AV実習室2室(AV5、AV6)の段差解消工事、1号館演習室A201、6号館C31教室の入口扉スライド化工事を計画通り実施した。
d) その他 ・北見校地施設の市民開放 ・北見校地の在り方の検討	北見市との提携による北見校地施設の市民開放については、計画通り実施した。北見校地の在り方については、引き続き検討を進める。

4) 学生・生徒募集、広報

事業計画	事業報告
・安定的な学生・生徒確保のための積極的な募集活動の実施 ・学園及び設置各校による効果的、戦略的な広報活動の検討など	長引く新型コロナウイルス感染症の影響で、募集活動が制約されたところもあったが、設置各校が安定的な学生・生徒の確保に努め、定員を充足した。 また、学園全体の広報活動等について、より効果的、戦略的に行うことができるよう検討した。

5）国際交流

事業計画	事業報告
・設置校において、下記の海外協定校との教員交換・学生交換・共同研究事業等を推進する。 ただし、事業の実施については、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、協定校とも協議を図り、慎重に判断していく。	新型コロナウイルス感染症の影響により、一部の事業のみ実施した。各設置校が交流事業を行った協定校については、以下のとおり。
【北海学園大学】 ・レスブリッジ大学(カナダ)、ハワイ大学(アメリカ)、遼寧大学(中国)、北京理工大学(中国)、大田大学校(韓国)、サハリン大学(ロシア)、ノボシビルスク総合大学(ロシア)、シベリア交通大学(ロシア)、ヴラヂーミル大学(ロシア)	【北海学園大学】 ・レスブリッジ大学(カナダ)、ハワイ大学(アメリカ)、大田大学校(韓国) ・令和4年8月17日、北京理工大学(中国)と学生派遣に係る覚書を締結。 ・令和5年3月1日、日越大学(ベトナム)と学術交流に係る協定を締結。
【北海商科大学】 ・レスブリッジ大学(カナダ)、山東大学・威海(中国)、煙台大学(中国)、中国社会科学院(中国)、大田大学校(韓国)	【北海商科大学】 ・大田大学校(韓国) ・令和4年7月20日、新羅大学校(韓国)と学生派遣に係る協定を締結。
【北海高等学校】 ・ブロック大学(カナダ)、ウェリントン高校(ニュージーランド)	【北海高等学校】　実施事業なし。
【北海学園札幌高等学校】 ・ブロック大学(カナダ)、ウェリントン高校(ニュージーランド)、コンコーディア高校(台湾)	【北海学園札幌高等学校】 ・コンコーディア高校(台湾) ※詳細は別添資料「国際交流事業実績報告書」参照

6）危機管理

事業計画	事業報告
a）危機管理体制の整備 ・さまざまな危機への備えと対応強化のための危機管理対応マニュアルや危機の未然防止のためのシステム等整備	危機管理体制の整備として、学園全体の危機管理規程を制定した。それを踏まえ、危機管理対応マニュアルの整備を進めていく。
b）災害時等に必要な備品の購入 ・災害緊急・危機発生時の対応体制及び必要備品の整備	災害発生時に必要な備品の調達や避難スペースの活用などについて検討を進めた。
c）新型コロナウイルス感染症対策 ・感染予防のための物資調達、遠隔教育環境等の整備と必要な支援の継続	新型コロナウイルス感染症については、引き続き設置各校と連携しながら、感染予防のための物資調達など必要な対策を講じた。

(3) 中期計画の進捗状況

令和4年度は、『北海学園中期計画（令和2年度～令和6年度）』の計画3年目として、計画に掲げた(1)教育研究、(2)組織運営、(3)教育・研究環境、(4)学生・生徒募集、(5)財政計画、(6)地域貢献の各取り組みに関する現状分析、課題整理や実現に向けての準備を進めたが、長引く新型コロナウイルス感染症の影響により、制約を受けざるを得ない活動もあった。

計画3年目を終えて、各項目の進捗は以下のとおりである。

1) 教育研究

・常任理事会において学園の教育体制について継続的に協議するとともに、教育組織検討委員会を立ち上げ、教育組織の整備や教育的課題について検討を進めた。

2) 組織運営

・常任理事会を毎月開催、理事会は10回(定例会8回、臨時会2回)開催し、理事会の機能強化を図った。

・理事の適正な配置や増員など、ガバナンス体制を一層強化するため、寄附行為変更認可申請を行い、令和5年3月9日に認可を受けた。

・長引く新型コロナウイルス感染症への対応として、引き続き、学園全体で情報を共有し、入学試験などには学園全体の協力体制を強化した。

・学園全体の危機管理についての諸課題を検討し、危機管理規程を制定した。

・寄附行為、就業規則など、各種規程の見直し、整備に取り組んだ。

・事務組織の改編に向けた検討委員会を立ち上げ、効率的で適正な事務組織を構築するための見直しを図った。

3) 教育・研究環境

・新型コロナウイルス感染症拡大に伴う経済状況の悪化に配慮して、先送りすることにした北海学園大学体育館の建築について、新たな建築計画の検討を進め、高等学校体育館の建築についても、検討を開始した。

・学生・生徒の健康・安全を守るという観点から、夏の暑さ対策として、年次計画により冷房設備の拡充を進めることとした。

・新型コロナウイルス禍の中で、円滑なオンライン教育の実現するために各種補助金事業を利用してICT環境整備を推進した。

4) 学生・生徒募集

・長引く新型コロナウイルス感染症の影響で、募集活動が制約されたところもあったが、設置各校がそれぞれに工夫しながら、新しい形で募集・広報活動に取り組んだ。

5) 財政計画

・各項目の進捗については、次のとおりである。

a. 入学者の確保：全体として令和3年度の入学者数を上回る学生生徒の入学があった。

b. 学生生徒等納付金の検討：北海高等学校・北海学園札幌高等学校における令和4年度入学生からの学費改定を行った。

c. 人件費の編成：一部の手当を廃止した。

d. 経常費の見直しと節減：理事会等で継続的に審議している。

e. 外部資金の確保：理事会等で継続的に審議している。

f. 寄付金の募集：引き続き行った。

g.減価償却引当特定預金の積立：予測より支払資金残高に余裕があったため、積立てを実施した。

・健全な財政基盤の確立に向けた主な財務比率の目標については、次項の３．財務の概要に表記する。

6）地域貢献

・新型コロナウイルス感染症拡大によって、地方自治体等との新たな連携協定については、豊富町と北海学園大学の包括連携協定(令和 3 年 6 月 25 日締結)を最後に、締結に至っていないが、引き続き地域と連携した取り組みの推進や地域社会との協働を進めていく。